

## 2. 蚊のくらしと代表的な蚊

蚊が卵から成虫になるまで、早いときには2週間くらいです。そして、春から秋までに何度も発生を繰り返します。幼虫（ボウフラ）は水中で有機物を食べて育ちます。**メス成虫**は、卵を作るための栄養を得るために、人、鳥、動物などから吸血します。一度に1～2mgの血を吸った後に産卵することを、数回繰り返して約1カ月間生きます。背中に白い条が1本ある黒い蚊はヒトスジシマカです。昼間に植物の茂みなどで待ち伏せして吸血し、デング熱やチクングニア熱の原

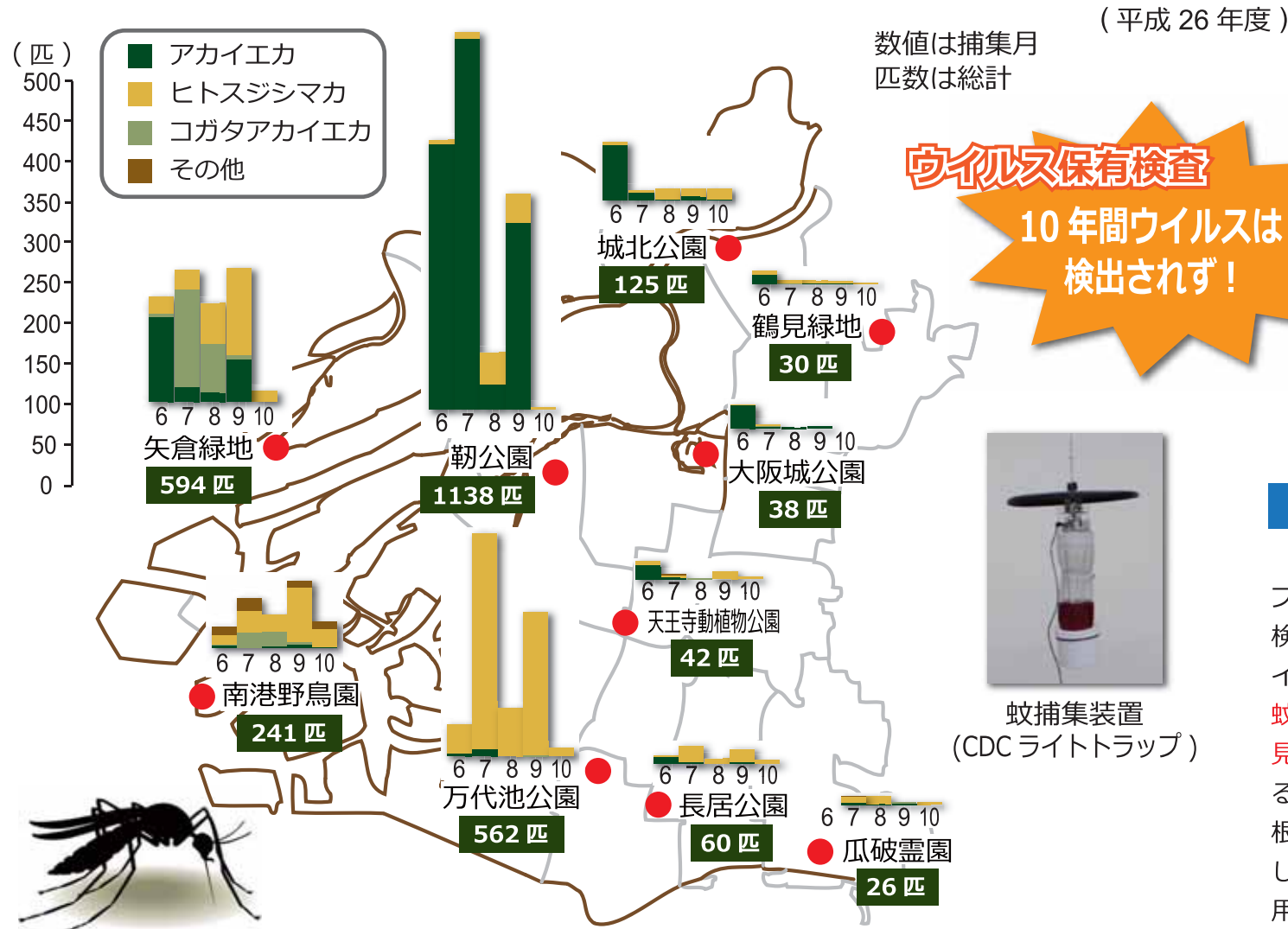
因となります。**竹の切株、お墓の水受け、空き缶に溜まったわずかな水から発生**します。赤茶色の蚊はアカイエカです。家の中に入ってきて、夜間に吸血します。排水溝や雨水枡などから発生します。ウエストナイル熱が侵入した場合、重要な媒介者となります。この他に、水田などから発生するコガタアカイエカ（日本脳炎の媒介者）とシナハマダラカ（マラリアの媒介者）にも気をつける必要があります。

## 3. マダニのくらし

マダニ類は家屋に発生するダニ類とは全く異なるグループです。野山や公園などに生息し、おもに春から秋に活動しますが、冬に活動する種もあります。卵からふ化したマダニ類の幼虫は背の低い草の上などで待ち伏せし、ネズミなどの小型動物に乗り移ります。十分吸血すると寄主から離れて若虫となり、また草の上で待ち伏せし、イタチなどの中型動物に乗り移ります。そして、十分吸血すると寄主から離れて成虫になりま

す。今度は、やや背の高い植物上で待ち伏せし、シカやイノシシなどの大型動物に乗り移ります。大型動物からたっぷり吸血し交尾を済ませたメス成虫は、離脱して数百～数千の卵を産みます。メスだけで増える種もありますし、寄主を変えない種もあります。**人が草むらを通ると、これらのダニが付着**します。ダニがめいっぱい吸血すると大きなおできができたように膨れます。このころになって気づく人が多いようです。

## 大阪市内で実施したウイルス等を保有している蚊の調査



## 蚊やダニに刺されないために・・・



### 蚊を発生させない ⇒ 水を溜めない

- ・空き缶やタイヤの周り
- ・植木鉢や受け皿
- ・雨除けシートのくぼみなどに雨水を溜めない

### 蚊に刺されない

- ・網戸
- ・蚊帳(かや)
- ・虫除けスプレーなど使う



ヒトスジシマカ 厚生労働省 HP より



### ダニに刺されない

- ・できるだけ草むらに入らない
- ・長袖長ズボン
- ・草の上では敷物を利用
- ・虫除けスプレーなどを使う



タカサゴキララマダニ

## 4. 防除と対策

大阪市では、2006年から市内10ヶ所の緑地で、トラップによる**蚊の捕獲調査**とデング熱等のウイルスの遺伝子検査を行っています。2014年度はヒトスジシマカ、アカイエカ等が合計約2800個体捕獲されました。これらの蚊から、**デング熱、ウエストナイル熱などのウイルスは見つかっていません**。蚊の防除には、ボウフラが発生する小さな水域を減らすことが重要です。植木鉢受けや屋根の樋はとくに水たまりができやすいので、気をつけましょう。そして、網戸、蚊帳、虫除けスプレーなどを利用して蚊に刺されないようにしましょう。薬剤による防

除も行われていますが、同じ薬剤を続けて使用すると蚊はその薬剤に対して強くなります(薬剤抵抗性)。薬剤が効きにくい性質をもつ個体が生き残るからです。大阪市では蚊の薬剤抵抗性を調査し、効果の高い薬剤を備蓄するようにしています。

マダニに刺されないためには、野山へ出かけるときは長袖長ズボンの服装をし、帰宅後、お風呂に入ってダニがついていないかチェックしましょう。ダニが皮膚に食いついているときは、無理にはがさず、皮膚科などで取ってもらいましょう。

山崎 一夫(微生物保健グループ)